

vol.4

2006.10

CONTENTS

ご挨拶 吉倉 紳一(総合教育センター長)	2
大学教育創造部門の 新組織体制と業務について 辻田 宏(大学教育創造部門長)	3
平成18年度 大学教育創造部門部会活動計画	4
大学教育創造部門組織体制表	10
大学教育創造部門兼務教員挨拶 上田健作(高大連携教育部会長) 石筒 寛(教育プログラム開発部会長)	11
Action ④	12

# Create

高知大学総合教育センター・大学教育創造部門



## ご挨拶

高知大学総合教育センター

センター長 吉倉 紳一

平成18年4月、既存の大学教育創造センター、留学生センター、アドミッションセンターなどを再編・統合して「総合教育センター」が設置されました。本センターの目的は「高知大学における全学生共通に必要な教育プログラム等の研究・開発・試行を行い、学部・大学院、その他関連する組織等と協働し、21世紀の知識基盤社会において有為な人材を育成するにふさわしい新たな仕組みを総合的に創造する」ことにあります。この目的に合わせて本センターは「大学教育創造部門」、「入試部門」、「キャリア形成支援部門」、「修学・留学生支援部門」の4部門で構成されています。また、必要に応じて部門にいくつかの部会が置かれています。各部門の任務は学務課、学生支援課、入試課などの支援を受けながら、専任教員と兼務教員によって遂行されています。さらに、国際・地域連携センターや保健管理センターなどとの協力関係を強化しています。

現在、高度な知識や情報や技術が、あらゆる分野での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会、いわゆる「知識基盤社会」への移行が進み、産業構造をはじめ社会構造が大きく変化しています。その中において国際競争力という観点からも、世界各国において高等教育の改革は喫緊の国家的課題になっています。本

学における教育も、こうした世界的動向に沿って、「知識基盤社会」で活躍できる人材の育成を目指さなければなりません。

「知識基盤社会」においては短時間で陳腐化する狭隘な専門知識を有する人材よりも、汎用性の高い基礎知識や技術に裏打ちされた「訓練可能性」の高い人材や、自分自身にあった効率的な学習方略を身につけ、生涯にわたって自立的に学ぶことができる人材が求められます。このような人材育成には、広範な知の領域に接近できる教育システムの構築や、「学ぶことを学ぶ」カリキュラムの導入が不可欠です。また、インターンシップやフィールドワークなどによって、現場の体験を通じて学びの意義を理解し、自らの学びのスタイルを創出する機会が提供されなければなりません。このような教育や支援を積極的に展開するには、教員の資質向上の仕組みも必要です。これらはいずれも「大学教育創造部門」が主体的に担わなければならない課題です。

大学教育創造部門はこれらの課題に全力で取り組み、高知大学の飛躍・発展の牽引車の役割を演じていく所存です。今後とも、教職員のご協力とご支援をよりしくお願い申し上げます。

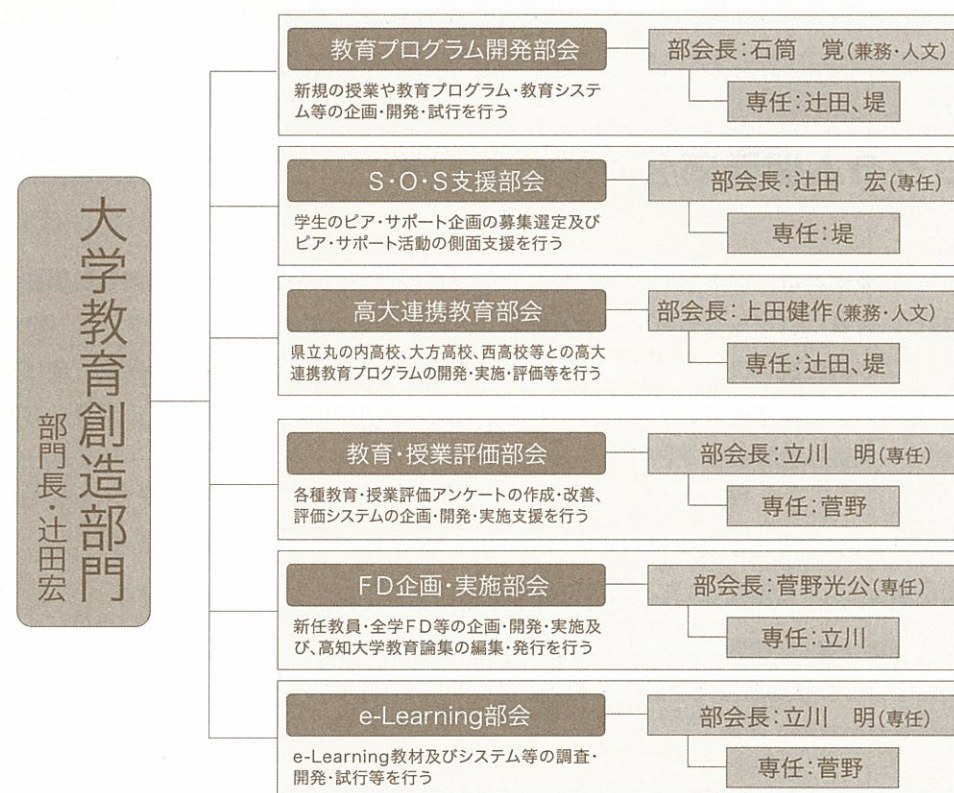
## 大学教育創造部門の新組織体制と業務について

大学教育創造部門長  
辻田 宏

### ■ 大学教育創造部門の部会編成と業務の概要

旧大学教育創造センターでの業務内容や組織体制を踏まえて、以下に示すように、部門の下に6つの部会を設置した。専任教員4名と兼務教員2名を中心に各部会を構成し、別掲(p10)にあるように、学部選出等の委員の協力を得ながら各種業務に取り組んでいる。

### 大学教育創造部門 組織体制(2006)



### ■ 部門会議

専任教員4名と兼務教員2名、学務課担当事務員2名をもって、部門会議を開催している。原則として隔週開催として定例化しており、各部会の活動状況の把握、部会間の連絡調整、部門全体及び各部会・事業の活動方針・戦略等について協議している。

### ■ 2006年度の活動の基本方針

- 部門専任教員及び兼務教員による担当責任及び担当部会業務の明確化、学部選出委員との協働によって、年度実施計画の実施・実現を中心に計画的・組織的に取り組んでいく
- 企画・立案機能を基本性格とする組織として、新しい発想や仕組みによる取り組みを随所で展開し、その試行・検証を深めていく
- 新センター（総合教育センター）の1部門になったことで、その活動が学内外から見えにくくなったが、部門としての実績を積むことを基本に広報活動や他組織との連携・協力を強化する

# 平成 18 年度 大学教育創造部門部会活動計画

## Activity plan

### 教育プログラム開発部会 (部会長：石筒 寛)

教育プログラム開発部会は、旧大学教育創造センター教育創造部門・教育創造専門部会の機能を一部引き継いだ上で、新しい教育プログラムや教育方法の開発や、特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）および現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）等の教育にかかわる競争的資金の獲得に向けた取組を行うために設置されました。本年度の活動は、主として、既存授業の実施、新規教育プログラムの開発、特色GP・現代GPに関する調査・検討の3つです。

#### (1) 既存開設授業の実施および評価

- ・第1学期開講授業：自律創造学習 I、課題探究学習、学びを創る
- ・第2学期開講授業：自律創造学習 I、自律創造学習 II、課題探究学習
- ・自律創造学習および課題探究学習の成果発表会（7月22日・19年2月上旬）
- ・既存開設授業の評価・改善

#### (2) 新規授業の企画・開発

- ・新しい課題探究型授業の開発・奨励（9月～19年2月）
- ・Problem-based Learning 型授業の支援（9月～19年2月）
- ・Project-based Learning 型授業の開発・奨励（9月～19年2月）

#### (3) 特色 GP・現代 GP に関する調査・検討

- ・特色 GP・現代 GP に関する学内調査（9月）
- ・平成 19 年度申請に向けた WG の設置（10月～3月）

#### (4) その他

- ・「国連持続可能な開発のための教育の10年促進事業」に関する取組整備

## Activity plan

### S・O・S 支援部会 (部会長：辻田 宏)

今年度から S・O・S は、新しい組織として再出発した。従来の情報セクション及び国際セクションを解散し、学生の申請に基づく多種多様な学生によるピアサポート活動を S・O・S として認定し支援を行うことになった。すなわち、すべての学生に対して門戸を開き、その活動に公共性があり、学生が相互に支援する活動であるならば、原則として S・O・S として認定されることになったのである。今年度はすでに2つのグループがその活動を展開している。

学生の S・O・S 活動を統括する S・O・S 支援部会は、大学教育創造部門専任教員とその活動を直接支援する教員によって構成される(p10 参照)。今年度の S・O・S 支援部会の活動の計画及び概要は、下記の表のようになっている。

日程(日時)	部会等	活動内容	備考
2006年 5月	S・O・S 支援部会	学生相互支援企画の募集・審査・採択	
7月	S・O・S 支援部会 リーダー会議	活動計画の策定・承認 学生相互支援企画の募集 活動報告・意見交換・ファシリテイト	
8月	S・O・S 支援部会 リーダー会議	学生相互支援企画の審査・採択 新規採択企画のファシリテイト	
10月	学生説明会 S・O・S 認定式 S・O・S 支援部会 リーダー会議	新 S・O・S に関する学生への説明会 S・O・S 認定証の交付 学生相互支援企画の募集・審査・採択 活動報告・意見交換・ファシリテイト	※追加分
12月	S・O・S 支援部会 学生研修会 リーダー会議 プレゼンフェスタ	学生相互支援企画の募集・審査・採択 チーム・ビルディングに関する研修会 活動報告・意見交換・ファシリテイト 準備開始	※追加分 ※学外講師
2007年 1月	プレゼンフェスタ	プログラム&案内(お知らせ)の作成	
2月	S・O・S 支援部会 リーダー会議 プレゼンフェスタ の開催	S・O・S 成果発表会の開催の準備 18年度の総括	
3月	S・O・S 支援部会 リーダー会議	S・O・S 成果報告書の作成 19年度に向けての計画等	※担当者間で分担 ※年報へ掲載

## Activity plan

### 高大連携教育部会（部会長：上田健作）

#### 1. 高知県高大連携教育実行委員会設置の意義

高知大学は、平成17年2月に高知県教育委員会（事務局高等学校課）と高知県高大連携教育実行委員会を組織して、今後この委員会を中心に高大連携事業を推進していくことになった。この委員会を組織するに至った背景には、高大連携事業が、出前授業や大学訪問などの事業の他に、高校教育の内容に深く関与するものにまで広がってきたという事情がある。つまり大学と高校が協働して教育プログラムを開発し実施する、そのような事業が増えてきた。高校生の理科への関心を喚起することを目的にした「自然科学概論」、「理学基礎実験」や論理思考や論理表現を鍛える実験的授業である「クリエイティブ・シンキング」などが一例として挙げられる。今後このような科目開設へのニーズが減少することはないだろう。しかし、大学側の供給能力には限りがあるのであって、やがては高校教育現場が、これらの教育プログラムを自ら実施する力を養う以外、全てのニーズを満たす方法はないのではないだろうか。

高大連携教育事業には、単に高知大学が有する資源を活かして高知県の高校教育に貢献するというにとまらず、高校教育と大学教育を巧く接続するための課題の明確化や課題を解決する教育方法を創出するという含意があるように思われる。実際に、高知県教育委員会の期待は、大学が有する各学問の専門性を活かして高校の教育力向上に寄与することにある。このような期待に応えるには、高校側と大学側でニーズや意見をすり合わせつつ、協働して教育プログラムを開発・実施し評価・改善していくことが必要だと思われる。

そのような場として、高知県高大連携教育実行委員会が組織された。大学教育創造部門・高大連携教育部会は、この実行委員会の大学側組織として、設置されたものである。

#### 2. 高大連携教育部会の役割と活動計画

##### 1) 部会の役割について

(1) 本部会は、高知県高大連携教育実行委員会が位置づける、県立高校と各学部等の連携によって実施される授業等、並びに県立高校と各学部が連携して行う連携教育プログラムの開発等に関して、学部間の連絡・調整を主たる任務とする。本部会は、高大連携に関する全学方針を審議する役割はもたない。高大連携は各学部等の主体性を尊重して行うものであることを確認する。

(2) 本部会が、高大連携教育プログラム開発の公開窓口の役割を果たす（学部等が独自に連携を創出することは全く妨げない）。公開の窓口とは、高知大学の学部につながりをもたない高校にとっての窓口を用意するという意味である。連携の申し入れが、県教委を通じてまたは高校から直接あった場合は、部会長から受け入れの打診を当該学部等に行う。

##### 2) 活動計画

- (1) 各部署で進めている高大連携授業及び開発プロジェクトの推進。
- (2) 高知県高大連携教育実行委員会の開催(年度末)。



## 平成18年度に実施される高大連携授業及びプログラム開発授業

#### 1. 連携授業の実施

- 1) 自然科学概論（理学部、主幹高校：高知西高校）
- 2) 理学基礎実験（理学部・農学部、主幹高校：高知小津高校）
- 3) クリエイティブ・シンキング（人文学部、主幹高校：高知西高校）
- 4) サイエンスパートナーシッププログラム（理学部、主幹高校：高知南高校）

#### 2. プログラム開発授業

- 1) 大方高校自律創造型地域課題解決学習プログラム開発（総合教育センター）
- 2) 高知丸の内高校との連携授業の開発・実施
  - (1) 学びを創る（総合教育センター）
  - (2) 自律創造学習Ⅰ（総合教育センター）
  - (3) 土佐の海の環境学への授業参加（黒潮圏海洋科学研究科）
  - (4) 防災関係授業の受講
  - (5) アグリベーシック（農学部）
- 3) 春野高校との連携授業開発（農学部）

#### 3. 高校生プレゼンフェスタの実施（19年2月予定・総合教育センター）

## Activity plan

### 教育・授業評価部会（部会長：立川 明）

18年度教育評価部会は、旧大学教育創造センターの行ってきた様々な業務のうち、教育および授業評価に関する企画およびそれに関連する企画を引き続き実施するため、年度計画に従って新たな企画、実施を行います。

#### 各種アンケート調査について

##### ■新入生意識調査アンケート（関連年度計画管理番号 20）

4月実施、集計および結果の分析を1学期中をめどに行い、報告書を作成して各学部および入試機構、総合教育センター入試部門にフィードバックする。

##### ■新入生導入教育に関するアンケート

6月～7月初旬実施、集計および結果の分析を1学期中をめどに行い、報告書を作成して各学部へフィードバックする。

年内をめどに導入教育に関する提言をまとめ、各学部に示す。

### 17年度実施アンケートフォームの調査、分析（関連年度計画管理番号 2、7、8、25）

1学期中に各学部で行った科目配置またはカリキュラム改革、授業評価、企業訪問時の聞き取り調査、企業に対する高知大の教育評価等のアンケート調査フォームを収集する。

各学部のアンケートフォームの分析を行い、改善の検討または新フォームの提案を行う。

### 成績評価に関するFDの実施について（関連年度計画管理番号 32）

1学期中をめぐりに成績評価に関するFD企画の検討を行い、2学期からの実施準備を行う。

### シラバスの検討について

#### ■シラバスとフォーマットの問題点について（関連年度計画管理番号 32）

シラバスの問題点とフォーマットの検討について、電子化シラバス実施専門委員会に協力する。

#### ■シラバスに記載された到達水準と成績評価基準について（関連年度計画管理番号 36）

1学期中をめぐりに教員対象の意識調査アンケートの検討を行い、2学期の実施に向けて準備する。

### フィードバックの実施について（関連年度計画管理番号 37）

フィードバックの実施状況を把握するため、教員を対象としたアンケート調査を実施する。

年内をめぐりに教員アンケート調査、昨年度実施した学生調査の結果を基に実施目標を定め、各部署へ配布する。

2学期末試験終了後、教員対象の実施状況調査を行う。

## Activity plan

### FD 企画・実施部会（部会長：菅野光公）

「FD 企画・実施部会」の2大任務は、①新任教員FDと②全学FDの実施である。

7月に第1回の部会を開催して、新任教員FDを9月1日に計画、今年度からは部会メンバーにも、新任教員とともにFDに参加して頂くことにした。3年目となる新任教員FDだが、毎回好評なグループ・ディスカッションを中心に、新任教員の相互啓発と交流を促進する。今年度の参加予定者は、30歳代の教員が飛び抜けて多く、このFDで深まったコミュニケーションが、本学の未来を担う若手のパワーとなることが期待される。全学FDは例年通り秋に開催し、昨年初めて企画した「学生と教員の共同開催」を再び行う。

昨年は①共通教育における学生授業評価アンケート報告

②理学部の授業等アンケート結果報告

③学生からの問題提起

④パネルディスカッション

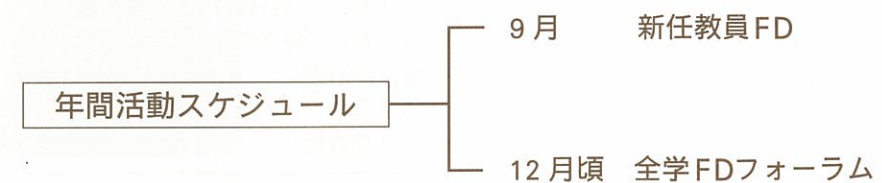
⑤フリーディスカッション

という構成で実施、出席した学生・教員の問題意識を大いに刺激した。締めくくりに、パネルディスカッションとフリーディスカッションの総合司会をした学生が、「今ここに来ていない多くの先生方にこそ、ぜひこの議論を聞いていただきたいかった」と、熱く訴えた。

今年度の内容については、これから「FD 企画・実施部会」で検討を進めるが、同僚各位からの提案や意見をぜひともお寄せいただきたい。また、会場が学生と教員で一杯となるよう、広報活動や口コミ伝達などにも力を入れていく予定。

「FD 企画・実施部会」会議は、上記の各行事の前及び必要の都度、開催する。

岡豊キャンパス・物部キャンパスの委員の都合を配慮して、メール会議やテレビ会議システムも併用する。



## Activity plan

### e-Learning 部会（部会長：立川 明）

18年度e-Learning部会は、旧大学教育創造センターの行ってきた様々な業務のうちe-Learningの構築や電子化キャンパス構想に関する企画等を引き続き実施するため、年度計画に従って新たな企画・実施を行います。

### 情報教育委員会への協力について（関連年度計画管理番号 26）

年間を通じて情報教育委員会の活動を支援し、教育改革に協力する。

2学期実施の「情報処理3」の開講など、年度計画に従った新たな取り組みに協力する。

### e-Learning システムの構築について（関連年度計画管理番号 60）

#### ■LDAP サービスへの対応について

現在運用しているWebアンケートシステムのLDAPサービスへの対応を行う。

1学期中をめぐりに新システムの検討を行う。

#### ■Web アンケートシステムの拡充について

1学期中をめぐりに、Webアンケートシステムの拡充について検討する。

一部プログラムを改良し、反応の高速化と使用上のトラブルへの対応を行う。

### FD 活動について

2学期実施を目標に、教職員の情報化を支援するためのFDを企画実施する。

10月中旬にFD企画の内容と実施、FD講師に関するアンケート調査を行う。

# ◆大学教育創造部門組織体制表

## 【教育プログラム開発部会】

部会長	石筒 覚 (人文学部・助教授/総合教育センター兼務)
委員	辻田 宏 (総合教育センター・教授)
委員	堤 敏広 (総合教育センター・講師)
委員	内田 純一 (教育学部・助教授)
委員	岡本 達哉 (理学部・助教授)
委員	三木洋一郎 (医学部・助教授)
委員	後藤 純一 (農学部・教授)
委員	大櫛 敦弘 (人文学部・教授/共通教育委員会選出)

## 【S・O・S支援部会】

部会長	辻田 宏 (総合教育センター・教授)
委員	堤 敏広 (総合教育センター・講師)
委員	池田 啓実 (人文学部・教授/総合教育センター兼務)
委員	上田 健作 (人文学部・教授/総合教育センター兼務)
委員	中澤 純治 (人文学部・助教授)
委員	小島 郷子 (教育学部・教授)
委員	赤松 直 (教育学部・助教授)

## 【高大連携教育部会】

部会長	上田 健作 (総合教育センター/人文学部・教授)
委員	堤 敏広 (総合教育センター・講師)
委員	岡谷 英明 (教育学部・助教授)
委員	藤原 滋樹 (理学部・助教授)
委員	谷 俊一 (医学部・教授)
委員	永田 信治 (農学部・教授)

## 【教育・授業評価部会】

部会長	立川 明 (総合教育センター・助教授)
委員	菅野 光公 (総合教育センター・教授)
委員	青木 宏治 (人文学部・教授)
委員	中野 俊幸 (教育学部・助教)
委員	加藤 和久 (理学部・教授)
委員	佐藤 純一 (医学部・教授)
委員	伴 道一 (農学部・教授)
委員	大石 達良 (人文学部・助教授/共通教育委員会選出)

## 【FD企画・実施部会】

部会長	菅野 光公 (総合教育センター・教授)
委員	立川 明 (総合教育センター・助教授)
委員	鈴木 啓之 (人文学部・教授)
委員	高柳 真人 (教育学部・助教授)
委員	島内 理恵 (理学部・助教授)
委員	野田 智洋 (医学部・講師)
委員	川合 研兒 (農学部・教授)

## 【e-Learning部会】

部会長	立川 明 (総合教育センター・助教授)
委員	菅野 光公 (総合教育センター・教授)
委員	遠山 茂樹 (人文学部・助教授)
委員	赤松 直 (教育学部・助教授)
委員	村上 英記 (理学部・助教授)
委員	栗原 幸男 (医学部・教授)
委員	尾形 凡生 (農学部・教授)
委員	岡本あゆみ (総合情報センター・助手)
委員	中村 亨 (理学部・助教授/情報教育委員会選出)

## 大学教育創造部門 兼務教員挨拶



高大連携教育部会長  
人文学部・教授/総合教育センター兼務  
上田 健作

総合教育センター大学教育創造部門の兼務教員になりました上田です。私に与えられた仕事は、センターの大学教育創造部門が担っている高大連携教育プログラムの開発、特に大方高校、高知丸の内高校との教育プログラム開発を担うこと、並びに高知県教育委員会と協働で組織した高知県高大連携教育実行委員会の大学側事務局員としての役割を果たすことだと考えています。

高知県高大連携教育実行委員会は、ともしれば大学に「まる投げ」になりがちな高大連携授業を、高校教育と大学教育を巧く接続するための課題の明確化や課題を解決する教育方法を創出するものに発展させることを目指して組織されたのだと思っています。この実行委員会がそのような機能を発揮することができるように努力しますので、ご協力のほどお願いします。



教育プログラム開発部会長  
人文学部・助教授/総合教育センター兼務  
石筒 覚

この度、総合教育センター・大学教育創造部門で、兼務教員を務めさせていただくことになりました人文学部の石筒です。私の担当は、主に教育プログラム開発部会において、自律創造学習や課題探究学習などすでに取り組まれている高知大学オリジナルの授業の実施と改善に加え、新しい教育プログラムや教育方法の企画開発・実施、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)および現代的教

育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)申請に向けた調査・検討を行うことです。

既存の方法と新しい教育プログラムを織り交ぜながら、いかにして「教育」を高知大学が持つ強みとして打ち出せるかを追求していきたいと思います。そのために学内のみならず学外の方々にも、ご協力をお願いしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

# Action4

学生たちが自主的に行ったクリエイティブな活動の紹介

## 平成17年度 学生による 「学生相互支援」採択企画

平成17年度 学生による「学生相互支援」企画に採択された「学長を囲む会」が平成18年5月31日(水)に「春の陣～意見のある奴こっちゃ来い～」と題されて開催されました。



これは、日頃接する機会の少ない相良祐輔学長に参加を依頼し、高知大学に対する思いやこれからの高知大学についての講話、また、学生アンケートや学生によるプレゼンテーションによって、今、学生が感じていることや疑問を学長に理解してもらおうという企画でした。

自由討論の場では、忌憚のない意見も出され、熱のこもった討論会となりました。

学長からは、「今回限りの開催ではなく、これからも夏の陣や冬の陣としてこういう直接会話のできる場



学長を囲む会「春の陣」ポスター

「春の陣～意見のある奴こっちゃ来い～」



を作っていたき、学生のみさんの視点から意見をどんどん寄せてもらいたい」とコメントをいただきました。



### 編集後記

- 今まで以上に強力な体制ができました。(つ)
- 高知の酷暑を3回乗り切りました。土佐の上にも3年です。(是)
- 走り続けてきて、最近やっと周りが見え始めたかな？(AT)
- 学生の柔軟で自由な発想に触れられることが、この仕事の喜びです(石)
- 間違えず、やっと「部門」と言えるようになりました。(未)
- おもしろい大変?? まだまだ初心者です。(川)

### Create Vol.4

Published October 2006 平成18年10月発行

### 発行

高知大学総合教育センター・大学教育創造部門  
〒780-8520 高知市曙町2丁目5番1号  
TEL (088)844-8652